

無垢フローリング 施工要領

【用意するもの】

接着剤（1 液型ウレタン系接着剤）、釘（60mm 以上のフロアネイル）、スペーサー（0.2mm 厚程度）

〔施工の前に〕

- 各商品は無垢材のため、天然木特有の節・斑・入り皮などの特徴があり、1枚1枚全て木目や色柄が異なります。必ず、仮並べをして色や柄のバランス（色合わせ）を調整してください。
- 無垢材のため、現場保管中や施工後にも節割れ、反りなどが発生する場合がございます。
- 無塗装・塗膜を作らない塗装の商品は特に、呼吸をしている関係上、常に収縮と膨張を繰り返します。施工の際は施工要領をよく確認し、締め過ぎないように注意してください。強く締め過ぎると床材が膨張したときの反りや突き上げを防ぐことが出来なくなります。



- 本商品は室内専用のフローリングです。屋外での使用は絶対にしないでください。
- また、コンクリート下地面へ直接施工することは出来ません。必ず捨て貼り合板の上に釘と接着剤を併用し、施工してください。
- 納品後は、なるべく水平方向に寝かせて保管してください。立て掛けて保管すると反りの原因となります。

〔施工の手順〕

【根太組工法下地】

- 大引きは90角以上の乾燥材（含水率14%以下）を使用し、909mm（以内）ピッチとしてください。
- 根太は反りやねじれの無いプレーナー掛けした45×45mm以上の乾燥材（含水率14%程度）を使用し、根太間隔は303mm（以内）ピッチとしてください。
- 根太の上には、厚さ12mm以上の合板（含水率14%以下）を捨て貼りすることをおすすめします。
- 根太と捨て貼り合板は接着剤と釘を併用して施工してください。
- 根太・合板共に段差の無いように施工してください。
- ピアノなどの重量物を設置する場合は根太間隔を半分にするか、捨て貼り合板を二重にする等して補強してください。
- 湿気が多い場所には防湿処理として、根太と捨て貼り合板の間に0.1mm以上の防湿シートを敷き込んでください。

【床下部分】

- 床下換気孔の位置と数は建築基準法施行令に従ってください。
- 外壁の床下部に壁長さ5m以下毎に300cm²以上の換気孔設置してください。
- 床下の湿気が特に高い場合は、地盤全体に厚さ60mm以上のコンクリートの打設、または防湿フィルムを敷くなどして、防湿処理を行ってください。

【施工】

- ①清掃
 - ・下地表面の木屑や埃を掃除機をかけて丁寧に吸い取ってください。
- ②下地確認
 - ・下地面の床鳴り、たわみ、目違い、釘の締め忘れが無いかを確認してください。

③墨出し・割付

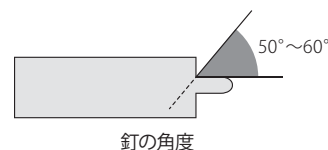
- ・ 貼り方向と平行に室内の中央に墨出しをしてください。
- ・ 基準墨を出し、それを基に、貼り始め部分と貼り納め部分が同じ長さになるように割付してください。
- ・ 壁際(端部)は1枚の巾が1/2以上になるようにしてください。

④仮並べ

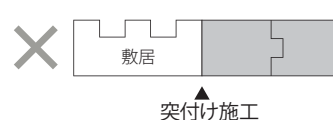
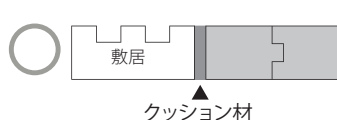
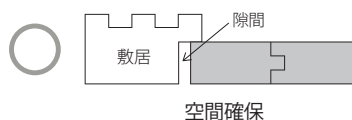
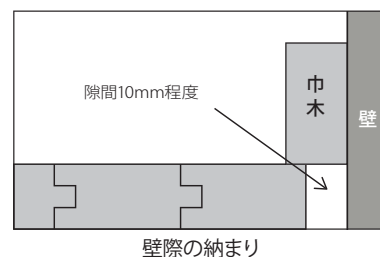
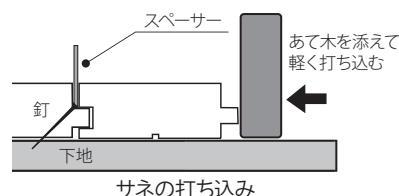
- ・ 無垢材の為、色や木目に個性がありますので、施工前に全梱包を開いて色合わせをしてください。
- ・ フローリングと根太が直交するように施工します。貼り方は乱貼りとし、平行貼りはしないでください。
- ・ 乱尺の製品の場合、短いフローリングが1ヶ所に集中することのないよう、仮並べを行います。
特に出入り口付近は目につきやすい場所ですので、注意が必要です。現場担当者の了承が得られてから、施工へ進むようお願いいたします。
- ・ 色味等に極端な不具合がありましたら、施工前に弊社までお申し出ください。
※施工後のお申し出には応じかねますので、ご了承ください。

⑤施工

- ・ 釘と接着剤を併用して、釘は60mm以上のフロアネイル、釘打ち間隔は長さ方向303mm以内としてください。
※ステープルを使用すると実が割れる恐れがありますので、使用しないでください。
- ・ 釘頭は必ず打ち沈めて、釘の角度は50～60度としてください。
- ・ 接着剤は1液型ウレタン系接着剤を使用します。
水性ボンドは床鳴りの原因になりますので避けてください。
- ・ 接着剤は合板と接する部分にすじ状に塗布し、実部分には入らないようご注意ください。
※実に接着剤が入ると、フローリングの『割れ』の原因となる恐れがあります。
- ・ 冬場に施工する際は、夏の突き上げを防ぐ為、実と実の間に0.2～0.3mm程度の間隔を開けて施工してください。
300～600mm間隔でスペーサーを入れ、あて木の上から床材を軽く叩いて実を差し込みます。張り込み時に実を強く叩きすぎると充分なクリアランスが取れなかったり、実が傷ついたりしますので、ご注意ください。
- ・ 木の伸縮を吸収するため、壁際(壁廻り)には密着させず、10mm程度の間隔(巾木厚以下に合わせる)を設け、その隙間の上に巾木を後付けしてください。
- ・ サッシや敷居には突き付けせず、10mm程度の間隔を設けてクッション材を入れてください。



長手・短手ともに、実部分に接着剤が入らないよう注意。



[養生方法]

- 施工終了後、掃除機をかけて乾いた雑巾やモップで木屑や埃をきれいに拭き取ってください。
- フローリングに直接養生テープを貼らないでください。表面にテープののりが残ったり、木材表面の繊維や塗装が剥がれるおそれがあります。
- 養生中もテープの剥がれが無いかを都度確認してください。隙間から小石やゴミ等が入ると、表面のキズやへこみの原因となります。
- 床全体を養生シートで覆うようにしてください。一部が露出すると、日焼けして色むらになってしまいます。

